住民と議会の意見交換会

（平成 27 年 11 月 2 日泊分館）

【開会時間　午後７時】

寺地委員長　（あいさつ）皆さんにはご多用のところ、湯梨浜町議会の意見交換会にお出でを賜りまして、誠にありがとうございます。私、本日の司会進行を仰せつかっております、議会運営委員長の寺地でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、各常任委員会で特出する件につきまして報告させていただき、そしてまた、今日の課題でございます地方創生に関しまして、皆様方の御意見を賜りまして、また行政と議会に対する御意見、提言等をいただければと考えております。皆さん方の御意見を参考にさせていただきまして、より良い町づくり、また議会の充実に向けて努力していきたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。それでは、光井議長が開会にあたりまして、御挨拶を申し上げます。

議長　（あいさつ）みなさん、こんばんは。ただいま、議運委員長の方からいろいろと説明した内容で進めたいと思います。意見交換という事で、湯梨浜町の創生、過疎計画と皆さんの方で意見があろうかと思いますので、過疎計画を作る段階でも、行政の方は皆さんと交換会をし、現在の計画を策定したと認識しています。その場に出られた方もあるでしょうし、出られなかった方もあろうかと思います。人口減少をどうするかという事がメインで今進んでいるわけです。県と町が最終的にどういう形を目指すのかという、基本的なところでいけば、県ではっきりしてきたことは、ＤＭＯという広域観光ですね。単発で観光のことを考えても仕方がないと、中部圏域でどうするかという事が、一つ大きなテーマになってきております。それは、中部ふるさと広域連合の中に、ほとんど組み込まれてくるわけですが、その中で今動こうとしています。もう一つは、ＣＣＲＣという、アメリカ版で出てきた、高齢者との関わり、そういう施設が今までのような形ではうまくいかないと。これの話が、一極集中打破に向けての日本版のＣＣＲＣという事で、若いうちから田舎に定住してもらう策はないかという事で、この 2 本柱が多分、県が打ち出した中では大きな柱で動いていくのではないかと思っている。その辺を含めて我々が今得ている情報を、皆さんの方に話をさせていただける機会があればそういう話を進めたいと、今言いました最終的には、この泊地区で、皆さんがどういう泊地区の姿でありたいと思っておられるのかという事を、今日忌憚のないところで意見交換させていただいて、議会として町政に働きかけるという役割を十分に果たしていきたいなという思いで、今日こうやって会を開いておりますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

寺地委員長　報告会につきましては、議員全員で役割分担をしてあたるという事にしております。発表者は各常任委員長が行います。まず最初に、本日出席の議員の自己紹介から始めたいと思います。（議員、事務局自己紹介）

寺地委員長　それでは、お手元の日程に従いまして進行いたしたいと思います。まず河田議会運営委員会副委員長が、資料の説明、日程の説明をいたします。

河田副委員長　（資料、日程の説明）

寺地委員長　それでは、議会報告に入りたいと思います。まず、総務産業常任委員長よりお願いいたします。

入江委員長　①水明荘の経営診断報告。（資料を基に説明）水明荘の経営状況については、ここ数年この報告会でも報告させていただいている。平成 26 年の 9 月議会で、平成 25 年度の決算審議で、代表監査委員からの指摘、また特別委員会での意見書によって、執行部に早期の経営診断の実施を促してきた。それを受け、執行部が本年度 5 月 20 日より約 2 か月間、水明荘の経営診断を、ビジネスデザイン研究所の中小企業診断士、穐田誠一郎さん含めたチームに診断をお願いし、経営診断を行った。改善骨子に書いてあるのが、ほぼ改善要点である。要は、これを含めてやらなくてはならないが、どう踏ん張れるかというのが、今改善をして、やらなくちゃいけないことだろうというのが結論である。それを受けて、アクションプランを、執行部、水明荘が一緒になって 12 月いっぱいに取りまとめを行うと、議会は報告を受けているところ。議会も報告を受けて、一緒になって検討をしていきたいと思っている。従来から言っているように、新築オープンから 18 年を経過している。みなさんも御承知かと思いますが、建物等 20 年を目途にして大規模改修とか、空調だとかの設備の改善が求められてくると思う。大きなお金がいることでもあり、水明荘の改善計画をきちんと立てた中で、経営をしていくことを我々も見守りながらやっていきたいなと思っている。続きまして②農業委員会と総務産業常任委員会の懇談会について。（資料を基に説明）今年初めての試みであった。農業委員会との懇談会を、7 月 30 日に初めて持った。これはなぜかというと、町内を見回して、うちの町だけではないが、耕作放棄地、鳥獣被害等大変多く発生している。この辺のことを農業委員さんと一緒になって、議会も考えていかないといけないという事で、懇談会を持った。忌憚のない意見を交わして、今後とも随時懇談会を持ちながら、一緒になって改善を図っていこうということを確認した。また、後継者の問題や農業振興等も大事だが、若手の農業者になかなかお嫁さんが来ない、婚活問題も含めて、議会としても一緒に取り組んで行く必要があると確認した。続いて、③北条道路（はわい～大栄東伯間）の対応方針(案)について。（資料を基に説明）皆様御承知のとおり、今はわいのインターチェンジの所は、改修が進められている。これが先行しているところですが、27 年度第 2 回の社会資本整備審議会の中国地方小委員会で計画の策定がまとまり、今まで事業計画が落ちていたものが復活して、今後整備されていくものと考えている。それに伴い、環境アセスメントとかに時間を費やすことが必要だと思う。2 年くらいは必要だろうと思いますし、用売の問題もあり今後時間が費やされてくるものだろうと思うが、これについても、国土交通省倉吉河川国道事務所等からも説明を受けながら、皆さんにまた報告ができるように取り組んでいきたい。続いて、④はわいＩＣアクセス道路計画について。（資料を基に説明）昨年も御報告しましたように、179 号の田後の福産の所から、葡瑠満さんの辺まで、特に交通渋滞が朝、夕に見られる。それを受け、国交省、県土整備局が、179 号の延伸、はわいインターチェンジへのアクセス道路の設置に向けて、計画を進められている。今年度は、道路の概略の設計、ルートの選定等を委員会を開かれて、決定されると聞いている。まだ確定したものではないが、議会全体としても、国交省、県土整備局か

ら逐次説明を受けながら、一緒になって進めていきたい。最後になりましたが、⑤筒地原線（筒地地すべり災害）の経過報告について。（資料を基に説明）なかなか沈下が止まらなく、やっとここにきてほぼ調査が終わって、本年度の 5 月 19 日から 20 日に災害査定を受けた。災害査定を受けて、災害認定をいただいた。申請額の満額の、約 6 億 1,400 万を付けていただき、27 年度から 29 年度の約 3 年間を費やして、県道の整備を行っていくと。その後に、町道の整備をするという事を、町の建設水道課から確認をしている。今年度、2 本くらい発注が終わり、深井戸を掘りながら上側から水を抜きながら、それから上に覆土をしていくというやり方で整備をすると聞いている。ずっと御指摘がありましたように、これ以上動かへんかとか、いろんなこともあろうかと思いますが、それについては、まだ計測器を置いたままですので、逐次地すべりの測定もしながら進めていると聞いており、また議会の方に報告をいただきながら、皆さんの方にも報告を何かの形でできるようにしたいと考えている。町道につきましては、県道整備が終わってからという事ですので、もう少しお待ちいただければと思っています。以上です。

寺地委員長　続きまして、教育民生常任委員長からお願いいたします。

浦木委員長　①国民健康保険及び介護保険について。（資料を基に説明）最初に 6 ページのグラフを説明します。下の方の棒グラフは、23 年度が低く 24 年度が高い。本来ならば、高齢者対象者がふえないといけないのに、23 年度が減って 24 年度がふえているのはおかしいじゃないかと

いう御指摘があるかと思いますが、このグラフは、退職者被保険者も含んでおり、24 年度に団塊世代が退職する人が多かったので、24 年度が多くなったという事ですので、御理解いただきたい。7 ページの国民健康保険事業の運営状況についてですが、今現在行政が取り組んでいる内容で、委員会でその報告を受けて論議してきた。論議してきた中において、まずその内容を早く住民の方に知らせる必要があるんじゃないか、というようなことを行政に申し伝えた。今回我々としても、この会での報告を一つの事項として取り上げた。行政の方も、皆さんに対する報告は、今月の町報の中に、医療費の削減に御協力をというページが載っている。これを読んでいただければ、かなりの部分がお分かりかと思う。一応行政も住民の皆様にお知らせをしていただいたようです。我々が行政の方から、医療費のパンクについて説明を受けたので、その文章を読み上げます。平成 28 年度の収支見込として、6,400 万円の不足が生じる。大きな原因として、1 番目に借入金の償還が始まること。2 番目に退職医療の適用がなくなるため交付金が減ってくること。退職医療の交付金が多かった。それがなくなってくるので、当然交付金が減ってくるということ。それから、3 番目に繰越金が見込まれないことが影響し、6,400 万円の不足が生じてしまうということ。この対策として、町報にも書いてあるが、このままいくと、年度末には基金も底をついてしまい、国民健康保険税率の引き上げも想定される状況になってくるということ。保険税率は国保審議会というのがあり、ここが最終的に決めますが、国保審議会は 12 月に開催されて、3 月中には決まったことを提案するという段取りになっている。3 月になってから、不意に議会に、これだけ上げると説明されても非常に困るという事で、町の方も 10 月から我々に説明をしてきている。そういったことが国保会計の現状であり、それを念頭に置いて、どういうことに取り組む必要があるのかという事も論議した。その中で、1 点目は健診率の向上。ゆりりん健診と言っていますが、特定健診です。4、5 年前に国が出し、4、5 年先には健診率が 50%になるよう町が取り組むべきだという事を言った。達成できなければペナルティをかけると国は言っていたが、全国的に見て達成できないようなので、ペナルティはなくなったが、現在湯梨浜町の健診率が、本来なら 50%になっていないといけない分が、25.7～25.3%で、半分というのが現状。健診は、医療費の削減を図るため、早期発見、早期治療による医療費削減を図るためと資料に書いてあるが、それも確かにあるが、一番大事なのは、皆様の健康を維持するために健診をやっていただきたいというのが、我々の願いである。皆様方も年に 1 回は健診を受けられて、自分の健康は自分が管理するんだというふうにしていただきたいと思います。もう一つが、健康増進の強化。これは町が一生懸命取り組んでいます。ウォーキングですね。いろいろな大会がありますけども、ウォーキング大会とか積立貯筋運動、こういったことをやりながら、ポイントで 7 ポイントになったら何か景品が付くようですが、そういったことをやって、皆様の健康維持の運動に取り組んでいただきたいというのが我々の思いであります。そのことに対して、行政と一体となって議会としても進めていきたいと思っている。次に②新中学校建設の進捗状況について。（資料を基に説明）この問題については、8、9 ページに今の進捗状況を書いています。我々がその中で論議してきたことは、まず配置図が提示され、グラウンドの広さ、駐車場の広さが足りないのではとか、隣近所に迷惑あるいは影響を与える配置図ではないかとい

うことを論議した。執行部は 2 案提示した。議会としては、今言ったことを踏まえながら論議して、提案された 10 ページに載せている配置図について同意した。次にメタンガスですが、地質調査をやっている時にメタンガスが発生した。メタンガスは、人体には無害で主に燃料に使用されるというガスだが、ガスと聞いたら心配される方もおられると思うが、全く心配のない分であると御確認していただけたらと思います。もう一点が、新中学校の開校準備委員会。この委員会が立ち上げてあり、議会としても何点か指摘をした。まず、21 人の委員がいて、女性が少ないというのが一点。もう一点が、充て職の方が多くて、1 年経ってその充て職がなくなってしまえば、その人もメンバーでなくなってしまい、この会全体の運営がやりにくくなるのではないかという事で、なるべく数年通して委員でおられるような方を選出していただきたいと言った。町としては、追加委員で、女性をふやすといった格好で 1、2 名公募することを含めて、10 人近くの人を委員としてやっていくと報告を受けている。あと、通学路の問題とかいろんな問題があるが、こういった問題は、今言った開校準備委員会で細かく取り組み、4 部会設置してあり、その部会の中でいろいろと解決していくと聞いている。我々はその委員会の動向を注視しながら取り組んでいきたいと思っている。以上です。

寺地委員長　続きまして、議会広報常任委員長お願いいたします。

濱中委員長　①議会広報の活動状況について。（資料を基に説明）私の方からは、報告というよりは、議会広報を手に取って読んでもらいたいという気持ちで、話をさせていただきたいと思います。12～15 ページとありますが、編集の考え方として、手に取って読んでみたくなるような紙面づくりを心がけている。真っ先に見るのが表紙であり、表紙の写真には大変苦労していますが、人物等を載せるようにして皆さんに興味を引いてもらうことと、見出しがあるが、これも興味を引けるような見出しを載せるように心がけている。昔の広報紙は、文字が小さくて写真が少なくて、文字ばっかりで今の感覚でいくと読むのがつらいなという感覚だったが、今写真を載せて、文字を少し大きくして、文字数は少なくなったが、これ位だったら読める範囲かなという感じの広報紙づくりを心がけている。もう一つ心がけていることは、分かりやすい文章。基本的には、中学生ぐらいでも理解ができるような言葉づかいとかに編集して載せている。14 ページですが、写真で努力していたところ、最優秀写真賞という事で表彰をいただきました。これは努力の結果かなと思っていますけど。（拍手するものあり）今後も努力していきたいと思いますので、よろしくお願いします。詳しくは、議会の概要の 3 ページに出ておりますが、年 4 回発行している。また、ＴＣＣで、議会の本会議の録画中継をやっている。また、本会議とは別に委員会の動画配信を町のホームページ上で録画ですが、配信しているので興味がある方は、白熱した議論を展開しておりますので、ぜひ見ていただきたいと思います。まだまだ編集も未熟でありまして、皆さんの意見を聞きながら今後も頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。以上です。

寺地委員長　それでは、ただいまの各委員長の報告につきまして、若干質問時間を設けたいと思いますので、質問等がある方は、挙手の上、お名前をおっしゃっていただきまして質問していただければと思います。マイクを渡しますのでよろしくお願いいたします。この度は大きな

テーマがどうも少ないようで、あまりないかもしれませんが。よろしいでしょうか。

住民　入江委員長にお聞きします。9 号線はわい大栄東伯自動車専用道路の完成年度が、もし決まっていたら教えていただきたい。それに伴い、バイパスについて羽合地区のバイパスの完成予定年度が分かれば教えていただきたい。もう一点、浦木委員長にお聞きしたいのは、中学校の完成年度だが、町長はスムーズに進めば 31 年度開校を前倒しする可能性もあると言われていたが、現段階では完成年度は 31 年度でいいのかどうかを教えていただきたい。

入江委員長　お答えいたします。まず山陰道の件ですが、まだはっきりした年度は聞いていない。先ほど言ったように一日も早くということだろうと思うが、環境アセスの問題でも、2 年なら 2 年で終わるかどうかも分からない。とにかく事業計画から完全に落ちてしまった事業を復活させたので、まだまだこれからじゃないかなと認識している。一日も早くという思いはあるので、その辺は委員会というよりも、議会全体で隣の北栄町や中部全体で促進を促したいと思う。その辺が分かりしだい、何らかの方法、議会だよりであろうとホームページであろうと報告したいと思っている。二点目の 179 号のアクセス道路は、今年度中にルートの選定をこれからされるようなので、その後の具体的なスケジュールはまだ示されてない。これにつきましても、先ほど申し上げましたことと合わせ持ちながら、国交省、県土整備局から情報収集して報告したいと考えている。

浦木委員長　新中学校の開校時期は、この間 10 月に行政が発表したところによると、本来ならば 32 年度の開校だったが、事業期間の見直し等をやって、平成 30 年度で工事を完成して、31 年 4 月に開校というのが先月の発表である。

住民　イメージ的には、はわい大栄東伯間が出来てから、アクセス道路ができて、はわいインターチェンジにつながるというイメージを持っていたが、今の話しだとアクセス道路が先になる可能性もあるという事か。

入江委員長　最終年度は分かりませんけど、並行して進められると私は考えている。アクセス道路は渋滞緩和のこともあり、渋滞緩和の一つの施策としてアクセス道路を進められると思っている。用売もうまく進めば、そちらの方が早くなる可能性もあるのではないかと考えている。

住民　この地域の渋滞は、喫緊の課題であり、一方で湯梨浜町一番の商業集積地域なので、また情報が入れば教えていただきたい。

寺地委員長　ありがとうございました。そのほかございませんか。

住民　水明荘についてお尋ねします。改善骨子という事で、たくさんいいことが書いてある。この中で、「おもてなし」と収支管理体制を取るとは、具体的にはどんなことでしょうか。おもてなしと言ったら、ものすごくよく聞こえる。この間温泉に行ったところが、温泉に入るだけだから大したことなかったかもしれないが、いらっしゃいませの一言もないし、これで果たしておもてなしと言えるかどうか。もう一回行こうかなという気になるのが、サービス業だと思う。水明荘に限らず、三朝温泉にしてもですが、いかに水明荘の経営改善を図って良くするかは、皆さんの望みだと思う。どういうふうな改善骨子、具体的にどこまで職員が携わってやっておられるのかをお聞きしたい。

入江委員長　まさしく今ご指摘のありましたことが、経営診断を受けるまでもなく、我々常任委員会もずっと話をしているところ。特にスタッフの姿勢、スキルの低下が甚だしいということ。

今言われたように、もう一回来てみたい、リピーターとなり得る要素、サービス業の基本的な部分が出来ていないのはずっと指摘してきた。今改善としては、いろんなセミナーとか日々の改善に向けて動いているが、民間の考え方、厳しさを持たないといけないと、常に報告を受けるときに支配人に話している。支配人も外からきていて、努力はしているが、執行部には話をしているが、支配人は人事を含めての決定権を持ち合わせておられないので踏み込めないところもあるという事で、その辺の改善を、アクションプランの中にもきちんと謳ってもらわないといけないと執行部にも話をしているところであり、これをなくして改善を図れないと思いますし、水明荘の再生もないのではないかと我々も考えているので、一緒になって改善に真剣に取り組んでいきたいと考えている。

寺地委員長　よろしいでしょうか。そのほかございませんか。いろいろ思っておられることがあろうかと思いますが、最後の方に皆さん方の意見、提言を聞く機会もありますので、そのときにでもお伺いできればと思います。次のテーマにどれだけに時間が必要か分かりませんので、少し早目にそちらに行きたいと思います。それでは、続きまして（2）意見交換会として、湯梨浜創生に向けてというテーマを掲げています。ご案内のように、昨年 5 月に、日本創成会議の増田さん発表の消滅可能性都市が 896 というような、かなり刺激的な話で、みなさん、行政も気づいてはいたが、それを指摘されますと、これは大変だとなったと思います。その問題の中で、国が、地域と仕事の創生を策定して、総合戦略、長期ビジョンを示した所でございます。この件について、全国的に取り組もうということで、現在進んでいるところでございます。また、わが県出身の石破大臣がその担当大臣として、一生懸命取り組んでおられますが。本町も 10 月 14 日に、湯梨浜町版のまち・ひと・しごと創生総合戦略、また湯梨浜町の人口ビジョンの策定をしているところでございます。本日の資料につけておりますが、皆様方以前にも目にしておられると思いますが、こういった点について、意見交換できればと計画をしているところでございます。たくさん目標が掲げてありますが、具体的な施策についてこれから行政が取り組んでいくわけでございますし、議会といたしましても、審議なり検証なりやっていくという形になるわけでして、皆様方の御意見等を今日はお伺いできればと思っております。進行につきましては、会見副議長で行うことにしておりますので、よろしくお願いいたします。

会見副議長　大変大きな議題を抱えております。地方創生という言葉が毎日新聞を見ますと、書かれてない日がないほど、地方創生の話が出ている。湯梨浜町も早速、町としての取り組みを町長をはじめ、執行部が提言している。それに対して私どもも、しっかりと学習をしながら現在進めているところである。資料の中にいろいろと書いてある。副題として、湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略について、みなさんがどのように考えておられるか意見をお聞きしたいと考えております、一つ目は、産業について、また仕事を創るという問題についていかがかと思います。二つ目は、人口減少に歯止めをかけ人をふやす、産んでくださいもいいですが、よそから定住を求めて湯梨浜町に入ってこられる方がたくさんある、そういう方向を目指していくという考えも出てきている。三つ目は、地域の元気で発展する町を創る。大変漠然とした考えの中で、皆さんの忌憚のない御意見を小さいところからでも結構ですのでお願いします。いかがでしょうか。

住民　　まずこの総合戦略の概要、位置づけ等というところに、第 3 次湯梨浜町総合計画との整合性も図りますと書いてある。昨年来この湯梨浜町においては、多種多様ないろんな計画が策定されているが、第 3 次湯梨浜町総合計画は、平成 28 年から 32 年の 5 年間で計画を立てるというものでありますが、しっかりと肝に銘じておかなければならないことは、第 1 次、第 2 次の総合計画ができたときに、10 年間の基本理念に基づいて既に 10 年間の基本構想ができているということ。第 3 次総合計画の 28 年から 32 年というのは、第 2 次総合計画の 10 年間、つまり 28 年から 32 年度までが既に理念として出来上がっているという事で、これは 23 年の議会で議決事項になって、いまだに継承されているところである。第 3 次湯梨浜町総合計画のみならず、次に申し上げるようなことも整合性としてしっかりとチェックしていただきたいと。私なりに考えますと、第 6 期の介護保険の事業計画が、既に今年度から 3 年間計画されている。この計画については、今年の 3 月に園区でも、あるいは泊地域でも長寿福祉課の計画によって説明はあったが、特に注目する点は、第 6 期介護保険事業計画で、認知症の地域支援推進委員の設置というのが 28 年度にあるという事。これを地域福祉の推進の観点から見ると、非常に重要な事業計画という事もあり、ただ単に長寿福祉課の方で任しておけばいいという事ではなくて、この地方創生の総合戦略に位置づけた大きな計画として取り上げていただきたい。もう一つは、湯梨浜町で泊地区だけが過疎地域で、25 年経過した。平成 2 年に泊村が過疎地域と認定され、今年 3 月に、企画課の方

から、過疎地域について園区においても説明したいとあったが、園区の方で公民館に集まったおおかたの方が、まず第一声は、過疎って何だいやとか、過疎ってどこの言葉とか、この泊地域におりながらそういう認識であり、非常に残念だなといまだに忘れることができませんが、なおこの過疎自立支援計画をこの総合計画、戦略の中に入れていただきたい。というのは、議員さんが時折、過疎地域について質問したときに、宮脇町長が、「あらっ」と思うような答弁されることがある。それはどういう答弁かというと、的外れな答弁があるという事。議員さんは、大丈夫ですか、過疎地域 5 年間特措法が延長になりましたけどもというときの返事に、大丈夫です、65 歳以上の老齢人口の比率は 29%です、というようなことで、さらりと事業も順調に進んでいますと言われて、そのときに議員さんの方では、もう一つ踏み込んで、泊の過疎地域のことを質問しているのに、町全体の 65 歳以上の 29%は何事だという事まで、今後はつめていただきたいと思う。泊地域の高齢化率は 33%です。第 6 期の介護保険事業計画の説明を長寿福祉課がしたが、課長も来ておりました。そのときに、非常に疑問に思ったのは、町のただいまの人口は、町の占めるパーセントは、というのに一貫していた。そのとき私は申し上げなかったが、説明会が終わった後に、おかしいじゃないですか、泊地域の説明で、泊地域の 65 歳以上の一番問題になるパーセントがなぜ出せないんですかと申し上げたら、ある議員さんもやっぱり東郷、羽合、泊という事で、それぞれのパーセントを出したものがほしいと言われたと、だからそういうことで、説明するのに過疎地域の同じような説明があった。だから、泊地域だけの説明というのに、3 つの地域の説明をするのに、泊だけは過疎地域の説明をしてほしいと再三申し上げたが、残念ながらパーセントの数字は出ていなかった。この過疎地域の自立促進計画はなぜ重要かというと、大きな総合戦略の中で、泊としては、どういう位置にあるか、過疎地域自立促進計画を見ないと分からない。町長の湯梨浜町は大丈夫です、結構いい仕事もやってますし、パーセントもそこそこ言ってますという事だが、もう少し議員さんも次の段階に踏み込んで、泊のことだけを聞いているのに、なぜ湯梨浜町全体なのかというところをしてほしい。以上大きな計画を申し上げましたが、その中で一番気になったことをもう一つ申し上げますと、ホームページで、戦略会議の模様がつぶさに議事録として残っている。この第 3 次総合計画で注意しなければならないのは、冒頭に申し上げました、第 2 次総合計画で 28 年から 32 年までは既に基本理念が出来ていると。それを踏襲されると思うが、戦略会議の中で委員さんが、総合計画には 6 つの大きな基本目標があるが、その中で、にぎわいと活力ある産業のまちづくりというものがあるが、その産業のまちづくりの産業というのが、どうも違和感があって、これを取ったらどうだろうかと、こういう発言があって、私はびっくりしてもう一回読み直したんですが、もしかしたら読んでおられる方が多いかと思いますが、これは議会で決まった大きな基本理念で、23 年に既に 4 年前に決まったこと。しかも議会の議決で決まったことを、総合戦略の委員さんが勝手にこれは気にいらんとか、これはない方がスカッとしていいとかが、なぜ言えるだろうと。明日以降でもホームページをご覧になられたら、そういうことが書いてあります。ですからそういうことを議員さんが、良かれと思って言われるというのが非常に寂しく思ったのですが、そういう事があるからこそ総合戦略の概要においても第 3 次総合計画の基本理念を忘れずに、後 5

年間の基本構想を大事にしてほしいと思う。総合戦略の中に第 3 次湯梨浜町総合計画との整合性というものがあるが、プラス第 6 期の介護保険事業計画、さらには泊地域の過疎地域自立促進計画も整合性として認めてチェックしていただきたいと。なぜかと言うと、この総合戦略というのは、議会の議決を必要としません。ところが、総合戦略が実際に動き出すと、もう動き出しているが先行型で、これにお金を付けていかないといけない。これはおそらく 3 月議会になると思う。そのときに、総合計画とか、あるいは第 6 期介護事業計画がどうなっているとか、過疎の方は大丈夫かとか、議員さんの一人一人の脳裏に入れていただいて、町長の意見に対しても、こういうことが反映できるような内容が示されたときに、堂々と意見を言っていただきたいと思う。以上です。

副議長　ありがとうございます。大変的確なご指摘をいただきました。議長、このことに対して。

議長　おっしゃった意見で気になるのは、総合戦略は、まち・ひと・しごとで、人口移動の一極集中を打破することが問われている。私が思うのは、田中角栄時代のときにあった、列島改造からずっときている。列島改造もとん挫した。その後歴代の内閣は、そのことをやろうとして全て失敗を繰り返してきた。今回の人口移動も、日本人口会議を 1974 年にやっている。そのときに、人口が爆発的にふえていくので、オイルショックとかいろんなことが起こり、日本人口会議が、日本の家庭のモデルケースを発表した。子ども 2 人と夫婦、これがモデルだと言い続け、日本政府は人口減少の方向に舵を切った。41 年かけて今の現状がある。みんながそういう事があったという事を置いてしまっていて、日本がそういう状況を作ってきたのに、今の人口構造がこうですと言うのは本末転倒であると思う。これから我々がやろうとするのは、一朝一夕に、ここに 5 年の計画があるが、そんなことでできるわけがないので、これからそれくらいのスパンをかかって日本の構造自体を変えようという、大作業の実験をこれからやっていくのではないかと思っている。総合計画は 130 ページある。この中身は書き物。私が問いたいのは、合併も 3 町がしたが、全部町村の歴史が違う。農業をとっても作っているものが違うし、ありようが違う。羽合は何が強くて、これから何を強めないといけないか、何が泊は強いのか、東郷は何が強いのか、イコールそこが、飯が食える環境は何かが問われていく。行政に頼っても、行政はもう限界。なぜかというと、下りてくる交付金も下がってくる。国にお金がないから当然の話。これからやらないといけないことは、泊は泊で、してほしい、こうであってほしい、羽合でも東郷でも、ほしいをやめること。してほしいではなくて、そこにおる人が、自分たちはどういう暮らし方がしたいとか、こういうことをやろうということを考えていかないといけない。そこに議員も自分が住んでいるわけなので、こういうことをやろうという細かいことを日々努力をするしかない。いきなり工場を作るとかは、夢物語だと思っている。それは諦めじゃなくて、いろんなパイプを使って持って来ようとしているが、果たしてうまくいくのか、よっぽど数がないとそれはできない。逆に地方創生は、そこに住んでいる人たちが、これからそれぞれ地域で、おっしゃったように介護保険も含めて、これからどうするかを、泊は、羽合とは違いますから。違うというのは、人口構造から見ても、おっしゃるように、羽合地区はこの 10 年間 6%弱伸びている。泊と東郷は減少が起こっている。なら同じ施策が打てるかと言えば、それは違うと思う。今日はその辺のことを、皆さんから我々に教え

ていただきたい。議員がみんないるので、それぞれの議員が答えられる範囲で考え方を述べればいいと思っている。おっしゃるように、まち・ひと・しごとの中には、おっしゃった点は入っていない。その辺のことは行政の方に、どの程度組み入れるのか等を話してきたい。今日はぜひとも泊地区が、人口が減ってきているのを止めるのにどうするのか、日頃感じておられることを、こういう施策を入れてくれとか、こういうことを考えてほしいという事をぜひともお話していただきたいなと。回答にならないかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

寺地委員長　当然知っておられると思いますが、総合計画と地方版総合戦略の関係という事で、方針が出ている。地方版総合戦略は、人口減少克服、地方創生を目的としているが、いわゆる総合計画等は各地方公共団体の相互的な振興や発展などを目的としたものであり、両者の目的や含まれる施策の範囲は必ずしも同じではない。また、地方版総合戦略においては、数値目標や重要業績評価指標（ＫＰＩ）を設定することとなっているが、こうした手法は総合計画等においては義務付けられたものではない。これらの理由から、地方の総合戦略は総合計画等とは別に策定をしてください。ただし、総合計画等を見直す際には、見直し後の総合計画等において人口減少克服、地方創生という目的が明確であり、数値目標や重要業績評価指標（ＫＰＩ）が設定されるなど、地方版総合戦略としての内容を備えている場合には、総合計画等と総合戦略を一つのものとして策定することは可能であると考えられます、というような考え方で整備をしているところですし、先ほど提言をいただきましたが、議員として答えられる範囲は、多分少ない。行政との兼ね合いもあります。この介護関係、基本目標のⅢで、町民みんなが創るまちの中で、具体的施策の中で、資料には出ていないが、例えばその地域拠点の集会所、バリアフリー事業、買い物難民対策、小さな拠点事業の推進とか、いろいろ具体的な事業があげてある。それで多分網羅できないとは思うが、こうした中で、こちらにあげられないものは、総合計画の中でうたってもいいと理解している。

副議長　いかがでしょうか。議員がこの場でこうします、ああしますとは言えませんので、貴重なご意見を、意見として取り組んでまいりたいと思っている。介護の問題にしても、片一方では、今言われる認知症の問題とか、筋トレの問題とか、いろいろ教育民生常任委員会で、一つ一つをチェックして取り組んでいる。浦木委員長。

浦木委員長　先ほど質問にありました、認知症の支援の取組み。確かに第 6 期計画の中にきちっと謳ってある。第 6 期計画は、原則的なことは、高齢者が住み慣れたところで、いつまでも安心して暮らせるような地域を目指すという事が大前提となっている。その中においても、さっきも言いましたが、我々団塊の世代が 75 歳以上になる 2025 年を見据えて計画を立てておるという事であります。まず平成 28 年度に、認知症地域支援推進員の配置、家族を支援するための相談業務を行うメンバーの配置が来年度に行われる。平成 29 年度には、家族も含めた自立生活のためのサポートをするチームを立ち上げるという事が 29 年度の計画に入っている。こういった二つのことで、認知症に対応していきたいというのが、第 6 期の計画である。物足りない部分もあるかと思うが、我々はこの件については注視しながら見守っていきたいと思っている。

副議長　そのほかございましたら。泊地域が、過疎地域という事で、行政の方が湯梨浜町としての対応をしていくという事に関してですが、隣に泊の議員がおりますので、一言。

議長　確かに●●さんがおっしゃるように・・・。

住民　さっきの町長の答弁ですが、質問されたのは濱中議員なんです。2 年前の 12 月議会です。もっと突っ込んでほしかった。泊の話をしているのに、湯梨浜町全体のことを言ってもいけないと。

濱中委員長　その後で、泊の部分の状況を言った。泊の中の 4 区が高齢化率が高いと。それに対しての回答はなかったが。ただあの時の質問は、泊地域は過疎計画があるが、同じようなところが町内にもどこかありますよねという質問だったので、ああいう答弁だったのかなと思った。

住民　結論は、羽合、泊地域でそれぞれ、65 歳以上の人口のパーセントが違うから、議員さんもしっかりと把握されて、全体の数字だったら過疎には通用しない。それを強く言いたかった。そのときに踏み込んで濱中議員に頑張ってほしかったという意味だった。

議長　分かりました。私、ちょっと勘違いしていました。議会はよく休憩を宣言するんです。放映していないところがありまして。今おっしゃったようなことは、かみ合いが悪かったりしたときに、いったん休憩を取るんです。執行部、今言ったような話がかみ合ってないと、濱中議員はパーセントのことを言っている、今資料を持ってきてほしいと。そのときに、再開かけるまでに、資料の見直しとか議員と執行部で話をして、こういう数字でいいですかとか。それから再開をする。本来ならライブで全部お見せすれば分かりやすいと思いますが。濱中さんの場合も、後で補足があって、泊だけでないと、他の地域の宇野はどうなのかとか橋津はどうですかとか、濱中さんはちゃんと把握されているが、町長が全部しゃべろうとしなくても、担当課に振れば、担当課は大概分かるが、これは余談ですが、そういう事があったという事です。

副議長　ほかに御意見ございませんでしょうか。今日は、忌憚のない御意見をどんどんおっしゃってください。ここで解決できないことがたくさんあると思いますが、言うだけは言ってくだされば。

議長　今おっしゃった過疎地域のことですが、今日来ておられる方は、わかっとるわいとおっしゃるかもしれないが、実はそうではなく、大事なことは、どうやってそこの地域の方が、湯梨浜の過疎計画で、何を行政がしたいのかということが分かっておられないんじゃないかと思う。今日は女性の参加者がおられない。若手もぱらぱらと。我々も去っていく身です。やはりこれからの泊地区の 20 年先、5 年、10 年先に、そこに住んでいるものが、地域をどうするかということを、そういう方が出られて、こういう地域でありたいとか、こういう部落にしようとか、伝統を守っていこうやとか、本当はそういうところに基本ベースを置いていかないといけないと思っている。これは羽合地区でも同じで、羽合が人口がふえているのは、政策が良かったと私は思っていない。羽合地域は、まんがまんがよかった。何がまんがよかったのか、1.5 キロ圏内に公共施設がある。若い人が何を考えて来られるかといったら、移住した方に全部聞いてはいないが、考え方は、そういうものが詰まっていると。交通形態を考えても、羽合にしろ東郷にしろ、雇用の場はない。だけれども、30 分、

40 分圏内に行けるのに、一番利便性として高いと。天神川越えたらあまり考えておられない。天神川よりこっち側の地区だけが念頭にある。そういう地区にあると。中学校建設されても、いくら場所が変わってもその範囲にあるから、若い世代が子どもを次の小学校、中学校に行かせることを考えた場合に、そういう地区を選んでいる。今言った交通形態がそうなので、選んだんだと、何人も流れてくる。言うように雇用の場があるわけでない。羽合がたまたまそういう場所にあるので、政策とか施策がすごかったからだとは思っていない。先ほどのバイパスの話も、素案が 3 つくらいあると聞いたが、これからみなさんに聞いてかかって、おっしゃったように商業地域がだめにならないためにどうするかと。地べたで行くのか高架かけるのかの辺りを県がこれから出してくると思う。この辺の問題もある。もう一つは、羽合地区は、うまい接続方法を考えていかないと、人口が増える対策をとってやらないと、一緒に湯梨浜は沈没すると思っている。そういうところの対策を打つこともきちんとしていかないといけないというのは、●●さんがおっしゃったように大事な要素でないかと思う。今日なんかでも、若い人にも出てほしかったなと思っている。

副議長　いかがでしょうか。お若い方から御意見出ませんでしょうか。先ほど浦木委員長が言っておりましたが、今の国会の話を聞いていると、すごく女性という言葉が出てくる。介護の問題で、介護離職というのが問題になってきている。介護をするために、夫の介護もそうでしょうし、親の介護もそうでしょうし、女性が職を辞めて介護に入る、そうすると生産的にマイナスだという事で、介護のために離職をしないような政治をやると言うが、実際は女性の立場からすると、感情的にそうは言っても、全て社会に任せて、介護をする立場になっても職を続けるのは、すごく勇気のいることだと反発を感じながら政治に対していうのもおかしいが、私の立場で。泊地域の方に対して申し上げたいのは、議長が言うように、自分の住んでいる町が政治によってどう変わっていくのか不安があれば、どんどん言ってほしい。御意見ございませんか。

入江委員長　昨年度この会で、●●さんから泊庁舎の活用方法についてお話をいただき、それを受け、執行部に提案している。お店の問題を含めての活用方法。検討はしていると思うが、はっきりしたものは聞いてない。泊地域の方にとっての、泊庁舎の活用方法の御意見があれば、地方創生の問題もあるし、その辺をお聞かせいただければ、一緒になって取り組めるし、さらに一段踏み込んだ話ができるのではと、問題提起として反対に思うわけですが、いかがでしょうか。

住民　泊庁舎っていうのは泊支所ですね。9 月議会で濱中さんが過疎計画に関連して泊地域の活性化を質問された中で、町長は小さな拠点づくりと言われた。今私は泊 1 区の公民館長をしており、公民館長会の資料の中で、泊支所、青少年の家、漁村センター、泊分館の 4 つの維持費が、年間で 810 万かかると説明された。これらをどうしていくか考えなければならないというのと、もう一つ新たに小さな拠点づくりということを町長は言われているが、小さな拠点づくりに関して、具体的に教えていただきたい。例えばどういうものなのか、役場の窓口機能とか、中央公民館の機能、高齢者の寄れる場所なのか。そういうものを泊地域の中に作っていただきたい。さらには、私は毎年言っているが、泊地域は商店が年々減っており、人口も減っている中で、新規創業とか開業が見込まれないので、できたら小

さな拠点の中に、公設民営の商店をテナントという形で募集していただけないかという思いはあるが、小さな拠点に関して、議会の皆さんがわかっていることがあれば教えていただきたい。

濱中委員長　質問して、答弁として、小さな拠点づくり、そこの中には、泊分館、青少年の家、泊支所、そこら辺の言われた通りです、を町長自体が考えている。過疎計画策定委員会の中で、どういう会議がされているか具体的には聞いてないが、9 月の質問の中で、12 月議会にそれを出すということだったが、今の状況を聞いてみると、1～2 回の開催のようなので、多分 3 月にずれ込むと思っている。そこの中でどういう話がされているかは分からなので、小さな拠点が具体的にどういう形になっていくのか。ただ、国土交通省のモデル事業だとか総務省がやっているモデル事業で小さな拠点づくりがある。そこのホームページを見てみると、ガソリンスタンド併用、コンビニエンスストアが入ったりだとかが出ている。泊に合った形でどういうものを作っていくかというのは、住民のみなさんがどういう事を望んでいるかということにかかってくるのかなという思いがある。運営にしても、そういう思いで自分たちで運営するということになれば、そういう形になってくるものだと思う。行政がこれを作ってこうですよじゃなくて、住民の人がどういうことを望んでどういうものがほしいかですよね、仮にそういうものを作る場合において。そこら辺までです、わかっている範囲は。決定でないので、期待したいが、期待してあとからガクッとなるのも怖いので。

住民　期待していますので、ぜひ濱中さんも頑張っていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

住民　議会行政に対する、意見提言について。小さな拠点というと、生涯活躍の町、ＣＣＲＣを連想した。町長は条件が揃っているということで、議会でも手を挙げておられるが、これは日本創成会議の高齢者移住の提唱から始まっていること。気になるのは、鳥取県内では南部町と湯梨浜町、三朝もでしたか、3 つが県の検討会の材料に上がっている。その時の答弁が、ＣＣＲＣで条件が揃っていると述べられている。ただ条件がどういうふうに揃っているのか、どこの地域を言っているのか、それが具体化しないと、このＣＣＲＣを進めていくうちには、いろんな問題が絡んで議員さんとの意見も食い違ってしまのではと常日頃考えている。なぜかというと、地方創生に、ＣＣＲＣという言葉は確かに出る。ただＣＣＲＣは、高齢者が都会の一極集中を避けて、東京を中心とした、埼玉、千葉、神奈川あたりから高齢者を呼び込んで、そこで受け入れた町が介護とか医療のサービスをしてという、うたい文句がある。ところが、地方創生というのはそうではなくて、働き盛りの若い世代を呼び込んで、安定した経済基盤を作って、雇用を創出して、子どもを産んでいただいて、町を賑やかくしていただくというふうに思っている。それが基本的な考えだと思う。ＣＣＲＣを話してみたら、高齢者をよんで介護、医療をサービスしますよと言っておられるから、ピントがずれてしまったりとか、的が外れてしまう。ＣＣＲＣの生涯活躍のまちを、町長がどちらのほうに軸足を踏み込んで条件が揃っていると言われておられるのか、そこがはっきりしないと、例えば泊庁舎も小さな拠点で考えてますよということなのか、あるいは、泊とは違う方に目を向けられて条件が揃っていると言われるのか、その辺も議員さ

んに踏み込んで聞いていただきたいと思う。だから本来の地方創生からちょっと外れたＣＣＲＣの定義から、お年寄りばかり迎えられても、おそらく子どもを産むような方は来られないと想像すると、人口減少に歯止めをかけるどころか、年寄りの面倒を見ないといけないような湯梨浜町になってしまうとなれば、その財源をどういうふうに考えておられるのか、財源の確保は大丈夫ですかというところまで精査しないと、こういうふうに条件が揃っているというのは、あらゆる面での条件が揃って、町長が答弁しないと町民に対して失礼な言い方ではないかなと。そこを代表である議員さんのほうで、どういうところが揃って町長はＣＣＲＣを促進されるんですか、南部町と湯梨浜町だけでもうじき鳥取県が来ますよという段階まで来ている。新聞にもデカデカ書いてあった。だからこれは議員さんも承知の上で町長にああいうふうにさせているのかなと。

議長　　議会はまだ承認したわけではない。執行部各部局も戸惑っている。戸惑っているのは、1個の部局ではない。おっしゃったそういう点を全部、議会からも言っている。ちょっと待てと。ＣＣＲＣ構想は、アメリカ版は、お金持ちの高齢者を集めて施設をつくり破たんした。ＣＣＲＣを日本版に置きかえたときに、栃木の那須とかいろんなところをモデルケースで作った。施設に部屋を持つのに 2,000 万のお金を払って入ってくる。施設と地域の住民が行き来できたりして、今までそこだけで生活していた人を囲い込むのではなく、地域と交流を図ろうというのが、日本版だと思う。そこに行きつくには、藤井さんが持っている施設とか、そういう人が核になってくるのか、あるいは町長が言っている、空き家住宅で適応していってそれがＣＣＲＣ構想で、生産人口を含めた家族移動なのか、ここら辺で考え方も変わる。介護保険も後期高齢者医療も今本当に大変な状況。健康年齢と平均寿命と 10 年くらい差がある。これからまだそこが膨らもうとしている。ＣＣＲＣで年寄りばかり連れてきて、60 歳の時は元気でも、10 年後は違う。そこの持ち出しが湯梨浜の財政に入ってくる。家族移動で来るなら生産人口がふえて、ベースとして変わってくるだろうが。議員もまだ話を聞いたくらいで半信半疑で、本当に向かうのか、という状態。執行部の中でも懐疑的というよりも本当でいいのかと。県もそういう方向で向かっているというから、ちょっとおかしいではないかと、疑問視している部分もまだたくさんある。

寺地委員長　ＣＣＲＣは今日お配りした資料の中に、基本目標のⅡの安心して暮らせるまちの中の、ＫＰＩの中で、ＣＣＲＣ事業に参画する民間事業者・団体数が今 0 団体ですが、これを 5 団体以上にするという計画が載っている。その実態を我々も把握していない。ＣＣＲＣというのがどういう意味なのかが分からない、まだ確定していな気がする。結局退職した人たちの継続的な基本になるコミュニティという意味合い。みなさんがまだ多分分かっていない。議員もわかってない、行政もぼやっとしていると思う。方向性としては、5 団体以上作りたいと出している。これから具体的な話をしてくるんじゃないかと思う。

住民　　心配な面というのは、定義がはっきりしていないということ。資料や新聞を読むと、結局は自分の生まれ育った土地で、最後まで元気で住み慣れたところで活躍するのが人間としていいという書き方がしてあったり、こっち向いたら、そうじゃなくて、高齢者を呼び込んで医療介護で子どもも産めないようなおじいさん、おばあさんを呼び込んで最後まで面倒をみるとか言って、全然全くの方向で流れている。我々が都市圏にいるとすれば、あな

た方は鳥取県に引っ越してください、人に俺の引っ越しまで世話してもらわなくてもいいというようなことが首都圏でもあるということは事実。だからなぜ条件が揃うのか、手を挙げて鳥取県でも一番二番を争うようなことをやるというのはちょっと問題があるなということです。

入江委員長　今言われるようなことがほんとだと思う。都市部に住まわれている人の 6 割は移住したくないという。誰もが住み慣れたところで終焉の地としたいわけです。終の棲家としたいわけです。鳥取県においても、わが町と南部町が手を挙げてやっている。南部町は湯梨浜より一歩進んでいて、ちゃんと予算化もしていろんな調査もしており、鳥取県の中では先進地だと思う。まだまだ議論が尽くされていないし、我々もそれを受けて、中間報告をまだ聞いていないので、それ以上のことをお伝えできないが、もっと議論を尽くしていかないと、絵に描いた餅じゃないが、あまりいい議論でなくなってしまうと思う。

議長　会議が、山田修平さんが座長になられると思うが、看護大学とか、介護関係、病院の関係者とか、中部全体で立ち上げていくのではないかと思う。まだそういうところまで行きついてないので、内容をいち早く議会に教えてくれと再三言っているので、情報がおりてくると思うので、またそれをみなさんのほうにいち早く考えていただきたいなと。議会だけで考えていても限界があるので、みなさんの意見をお聞きしたいと思う。

副議長　皆さんの方で御意見がございましたら。何でも結構です。

住民　今年区長をしていて、先月で 10 人目の葬儀をした。これからもこういう状態が続いていくと思う。かたや、子どもが生まれるかというと、産まれたと聞くことも無く、人口はどんどん減っている。現在宇谷は、160 戸余りで、580 人の人口。ほんの数年前まで、650 人とかそれ以上人口があったが、年々10 人前後くらい減っていく、子どもはふえないという状況。インターネットでも見ていたが、この総合戦略で、どこにスタンスを置くかということ。人口が増えることはないと思う。これは 20 年も 30 年も前から言われてきたことなので、今更という気はするが、人口をできるだけ減少を食い止めるという事なら、羽合地域のような移住で来てもらわないと増えないと思う。羽合地域が多少なりともふえるにしても、東郷、泊でこれだけ減少していけば、プラスマイナスしても、必ずマイナスになっていくだろうなと思う。減少を食い止めるため何をするか。ここに書いてあることは、我々が役場にいてもこういう言葉を並べてしまうんだろうなと思う。実際に具体的に何をするかというのが一番大事になってくる。議会から提言してほしいのは、今までみたいなどこでもやるような支援をしているようでは駄目だと思う。退職してからこっちに帰ってきてもらうのもいいが、移住定住を図るなら、子育て世代の若者夫婦が移住してもらわないと。湯梨浜町だったら、住んでみたいな、子育てしたいなという町だということを発信することを考えないと。具体的には保育料も安くしていると思うが、例えば今年 9 月から、3 人目が無料だと聞いたが、3 人目という事でなく、1 人目も 2 人目も何らかのよそと違った面を出さないといけないと、全部の子どもを考えてみたらどうかなと思う。子どもを育てたいとか産みたいと思う時に、特別医療とか、就学支援とかで湯梨浜町にと考える人が出てくるかなと思うので、議会のほうからそういう提言をしてもらえれば。今までにない大胆な

考え方でやってほしい。過疎計画は、当初は 9 月に議会に出すときいていたが、この創生もあって遅れているのかなと思うが。2月3月に泊地域の集落を回られて、意見を聞かれた。宇谷も 30～40 人出て、細かい意見が出された。12 月に議会に提案されるという事で、議会議決してからでないと我々のほうには内容は分からないと思い、もしできれば、議会提案までに、具体的な事業を教えてもらえればと思う。できないと言われたら仕方ないが、話を出してもらえたらと思う。もう一点、国保の件。私もいま国保に入っているが、何年か前に単町では維持するのが大変ということで、県で一本化していくという話を聞いたことがあるが、具体的なことはまだ進んでいないのか。

浦木委員長　国保の一本化は具体的に前進している。2～3 年のうちに一体化し、将来的には、全部の保険、共済とか協会健保とかいうものが一本化になっていく。

議長　後期高齢で問題になっているのが、後期高齢は県で一本化しているが、各市町村で医療費のばらつきが大きい。一人が使っている金額が 20 万くらい違っているところがある。使いすぎるところは、払えと。使ってないところにおんぶさせるなという話が出ている。20 万といったが、30 万くらい、一番使っているところと使ってないとことが。こういう問題もある。これを国保もやると、同じ問題が出てくるだろうと。負担割合を変えてくれというような問題も議決前に出ている。まだそこまで具体化はしていないが、今年あたり出そうかなと。国保がやった場合も、そういうことも起こってくる。

副議長　過疎問題については、持ち帰って回答できるようにします。ほかに。

住民　国民宿舎にこだわる理由は何なのか。メリットがなければ、対外的な旅館経営の展開としても、国民宿舎を外して、一般ホテルに切り替える方が、利用者に分かりやすのでは。国民宿舎にこだわる理由がわかりにくい。利用者にメリットもない、湯梨浜町にもメリットがないなら、あえて国民宿舎にこだわる理由がないと思うが。

入江委員長　それは、率直に言って宮脇町長の思いでしょう。ランドマークとして残したい、これが第一だと思う。我々はこだわる必要はないとずっと言ってきた。サービス業として体をなさない企業なら、必要ないんじゃないか。それは大きな大規模改装も考えるのであれば、民間を圧迫するようなら、行政が持つ必要がない。指定管理、売却のいろんな方法もあると常に議会として言っているが、この診断を受けてもそういうことがありますので、先ほども言いましたように、まだ検討をして年内中にはアクションプランが出来てませんので、我々もそれ以上のことは言えませんが、これが今の回答だと考えている。

寺地委員長　まだまだご意見があるかと思いますが、ペーパーに書いて出してもらってもいいですし、後ほど議会事務局に届けていただいても結構です。予定しておりました時間となりましたので、閉会したいと思いますが、本日伺いました、質問とか御意見等につきまして、お答えできなかった点は、後日委員会、全員協議会で審査検討をして、議会だより、その他で報告させていただきます。なお、湯梨浜町議会意見交換会の実施要綱を設けており、集落、各種団体から開催申込みがあれば議運で協議の上開催しますので、事務局にお申込みください。それでは、長時間にわたりまして御意見をいただきましてありがとうございました。

河田副委員長　提言書の提出は、各支所の窓口でも結構です。

副議長　（あいさつ）本日は遅くまで貴重な御意見をたくさんいただきました。本当にありがとう

ございました。ご苦労様でございました。

【閉会時間　午後９時０６分】